

玉野市民版に掲載されました

海を守るキャラクター考案

海洋博物館ワークショップ

児童ら、生き物モデルに

海洋生物をモチーフに、岡山の海を守るキャラクターを生み出すワークショップが1日、玉野海洋博物館で開かれた。市内、岡山市などから参加した小学生親子15組40人が、自由な発想で個性豊かな「生き物」を考え

た。子どもたちは館内の生き物を見学した後、色鉛筆、クレヨン、フエルトペンを使って制作。図鑑や館内で撮っ

た写真を見ながらミズクラゲ、ウナギ、アヤトビウオなど気に入った生き物をモデルに自分だけのキャラクターづくりに取り組んだ。

玉野海洋博物館の岡秀彦館長による「瀬戸内海の自然環境」と題した話もあり、干潟やアマモ場、岩場、砂浜など、環境の異なる場所それぞれに生息する生き物を紹介。「瀬戸内海は栄養が豊富で、

波が穏やかなので、サワラやトラフグは卵を産むために広い海から移動してくる」と話した。

田井小学校の2年今田真璃奈さん(7)は、歩いて砂浜をきれいにするとというカブトガニのキャラクター「カブトくん」を考案。「海の生き物をモチーフに個性豊かなキャラクターを描くワークショップの参加者



ラフルに塗った。好きに塗られるように海をきれいにしたい」と、姉の

4年真祐子さん(9)は「岡山の海には、想像以上にたくさん生き物がいることを知ってびっくりした」と話していた。

ワークショップは、きれいな海を後世に残す意識を高めてもらうと日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、山陽放送が主催。6月10日の備前市、6月17日の笠岡市に続いての開催で、11月ごろには県立大の学生が協力して全3回で誕生したすべてのキャラクターが登場する絵本を作り、県内の図書館に配布する。

(岡本遙加)